

2022.3.16

## FTK - テクノロジー・フォー・ザ・キッチン2022 ビルトイン家電の現在と未来

FTK (テクノロジー・フォー・ザ・キッチン)は、エウロクチャーナの併催見本市として、より持続可能な未来のために、責任ある、包括的な、接続されたキッチンの最先端テクノロジーを紹介します。6月7日から12日まで、ロー市のフィエラミラノ、9-11と13-15の4ホールで開催されます。

今後、ますますサステナブルな家電製品が登場することは間違いないでしょう。日々の家事の中で環境に与える影響を最小限に抑え、私たちのライフスタイルや健康の向上に役立つという課題を持つ、とてもスマートな存在が求められます。エウロクチャーナの併催見本市、第8回FTK(テクノロジー・フォー・ザ・キッチン)では、芸術と呼べるような保存と調理の革新的な製品、プロトタイプ、コンセプトの発表を通じて、内蔵技術と換気扇フードについて考える場となることを目的としています。テクノロジーはますますその責任と柔軟性を増し、人間的で直感的、アクセスしやすく、私たちの生活に溶け込む存在となるでしょう。

9-11ホールと13-15ホールの11,000 m<sup>2</sup>以上の出展面積に39社が集結します。

4年ぶりの開催となるFTK、気候変動やCovid-19の大流行がメディアを賑わせている中、業界のトッププレイヤーが語る最も関連性の高いトピックは、**環境へのコミットメント**です。生産、包装、物流の**環境負荷がどれだけ低減されたか**、包装だけでなく家電製品にもリサイクル素材が多く使われるようになったか、**製品の寿命がどれだけ延びたか**、**延ばせるか**、**廃棄される**ときどうなるかなどを知ることができます。

例えば、スマート照明やガラスドアを組み込むことで冷蔵庫内の視認性を高めて食品廃棄物を削減したり、直感的なインターフェースでオーブンの持続可能な使用方法や、食洗機の節水方法を提案するなど、**家電製品の効果的な省エネ性能**と消費者の**活動効率**を高め、適切に持続的に使用するための機能が基本要素になります。もうひとつのトレンドは、ほとんどの家電製品で**強力な除菌**や**アドホック・クリーニングプログラム**を提供できるようになります。

これを実現するために、**シームレスにつながる家電**、家庭管理を簡素化する人工知能を搭載した家電、様々なソフトウェアアップデートに処理し組み込むことができる情報を提供する家電が登場し、家電ソリューションをオーナーのニーズに適合させる開発プロセスの中心にユーザーを置くことになるでしょう。中長期的には、スマートフォンやテレビから共通のプラットフォームやアプリケーションにアクセスすることで、異なるメーカーの冷蔵庫、オーブン、食洗機、コンロなども利用できるよう、**家電製品の相互運用性**を保証する**真のスマートホーム**を主要プレイヤーが提案することになるでしょう。



より良い未来を築くために、**サステナビリティ**だけでなく、さらに一步踏み込んだ取り組みが必要だと気づいたメーカーもあります。例えば、音声コマンドや点字ラベルなど、技術をより人間らしく、直感的に、誰にでも簡単に使えるようにする方法について、**アクセシビリティ**と**インクルーシブ**について検討し始めています。簡単なジェスチャーで下段カゴを任意の高さまで上げられる食洗機を世界で初めて開発し、腰をかがめることなく簡単に食器に手が届くようになります。

これらの多面的なストーリーテリングは、**冷蔵・冷凍**から**調理・取り出し**まで、**十分満足のいく結果を実現し、消費を最小限に抑え、生活の質を高め、家電の寿命を延ばすための最新の性能**を備えた製品群として具現化されるでしょう。

近い将来、**冷蔵庫**は自動設定され、低コストで優れた性能を保証し、透明なガラスパネルを通して中を見ることができ、ディスプレイとして機能するとともに、レシピを参照して食品の無駄を省き、ビジュアル追跡によって製品の期限切れや欠品を知らせ、オンラインで自律的に買い物をすることができるようになるでしょう。冷蔵庫と**オーブン**は互いに「対話」し、前者は食材を認識し、後者は様々なレシピを選んで調理します。**食洗機**は、さらなる低消費電力と半分の時間、リモート管理、人間工学に基づいた快適性を可能にします。

また、スターシェフと同じ技術・手法で食材を保存・調理できる**専門性・多機能性**を高め、温度、湿度、電力のバランスをとることで、食品の栄養価、食感、味、色、香りを尊重し、維持する家電が登場します。

人間工学、素材、色彩、美しさといった外観の要素が、提案するソリューションの重要な点であり、趣味やスタイルのあらゆる要求を満たす家電製品を提供するために、**パーソナライズ**や**カスタマイズ**が**可能なデザイン**への方向性がますます強まっています。

プレスお問い合わせ先: 山本幸 [yuki@milanosalone.com](mailto:yuki@milanosalone.com)

International press info: Marva Griffin-Patrizia Malfatti [press@salonemilano.it](mailto:press@salonemilano.it)